

長野県革新懇ニュース

2024年12月・25年1月合併号
発行日1月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 00510-3-15971

302

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 黒坂正文さんインタビュー
- 2面 1面続き、「松枯れ対策をめぐる諸問題」村山隆さん
- 3面 全国革新懇交流集会、憲法9条の碑建立
読者の声、漢字パズル
- 4面 「雨よ降れ」ハザード・ランプの会話 窪島誠一郎さん
「写真で辿る信州と戦争」北原高子さん
映画評論『地獄の黙示録』内山到さん

長野県革新懇

検索



1949年上田市生まれ。シンガーソングライター、コカリナ(木のオカリナ)の創始者(黒坂黒太郎名)。大学卒業とともに作詞、作曲、フォークシンガーの道に入る。民俗学者故宮本常一氏の激励を受け、全国各地を歩き、地球環境や生活をテーマにした歌を歌い続ける。

コカリナの音色は 人と人、自然をつなぐ

くろさか まさふみさん
黒坂 正文さん
(音楽家・作家)

幼少期の体験と コカリナが共鳴

Q 日本においてコカリナの普及を牽引されてこられたわけですが、「コカリナとの出会いについてお聞かせください。」

学生時代からシンガーソングライターとして全国各地でコンサートをやってきましたが、高校時代には吹奏楽でフルートをやっていたので、コンサートではフルートも吹いていました。そんな関係で笛が好きで、いろんな所の笛を集めたりしていました。外国へ行ったときも面白い笛が沢山あり、そういったものを買って楽しんでいました。フルートもとても良い笛なんです。金属で出来ているためどうしても金属の音なんです。僕は自然豊かな環境で生まれ育ったものですから、

自分で木の笛を作ったりして遊んでいた。木の笛に親しみを感じていました。

たまたまハンガリーによく行っている友達がコカリナを買ってきてくれました。それを手にして吹いた瞬間に自分が求めていたのはこれだ！という劇的な出会いとなり、たちまち虜になりました。とにかく出会った時によく言われるビビッとくるような感覚を覚えましたね。それを契機にコカリナを求めてハンガリーに度々行くようになりまして。もともとハンガリーの露店で売られていたおもちゃのような笛だったんですが、それを日本に持ちこんだわけです。

上達すれば クラシックも演奏

Q コカリナの特徴やコカリナコンサートの様子をお聞かせください。

全く同じような笛がドイツの方にもありますが、小さなコカリナは首にかけているところへ持つてくることができるので、ヨーロッパでは旅人が魔除けとして使っていたのではないかと思います。ヨーロッパには名前は全然違うんですけど、他にも似たような木の笛がいろいろあります。日本をはじめアジアでは竹の笛ですが、すでに穴が開いているのでそのまま利用できるわけです。ところがヨーロッパには竹がほとんどありませんから、水道管でも何でも木をくり抜いて作るの、そうした加工技術がすごく発展しているんですね。そこから木の笛が出てきているのではないのでしょうか。

木と竹では音質的に違って、木の方がどちらかというと柔らかい音になるんです。コカリナというのは鳥の声とか非常に近い音色があります。小さい頃いつも鳥の声を聞きながら遊んでいた体

験とコカリナが自分の中で結びついて共鳴している、そんな気がしています。

忘れられない 数々のコンサート

Q これまでの活動で印象に残ったコンサートはどのようなものですか？

コカリナ協会の会員は25000人位ですが、愛好者は10万人位はいるのではないのでしょうか。子どもから年配の方まで簡単な曲だったら誰でも吹けるようになるので、それがすそ野の広がりをつくっていると思います。簡単な曲しか演奏できないのではないかと思われるかもしれませんが、決してそんなことはなくて、上達すればクラシック曲やかなり難しい曲も演奏できるようになります。ハンガリーの民謡を元にした「チャルダッシュ」というとても難しいバイオリンの曲があつて、僕もバイオリン奏者と一緒に演奏しますが、色々な曲を幅広く演奏できる楽器です。みんなで演奏するとすごく楽しいですから、たくさんサークルがあつて、長野県内にも小さなサークルを入れたら多分100位はあるのではないかと思います。

昨年、演奏生活50周年を迎えて、全国15ヶ所でコンサートを開きました。2月の函館から始まって、九州から東京そして昨年11月に神戸で締めくくりました。各地の50周年コンサートにはコカリナのグループと一緒に演奏してくださいました。サークルもいろいろな地域で生まれてとて

も嬉しく思っています。

被爆・被災の木から コカリナをつくる

Q 爆心地や被災地の木を使ってコカリナを作られた思いはどのようなものですか？

多分コカリナだけでも2000回以上のコンサートをやっているとありますが、どれも本当に忘れられないものばかりです。中でもニューヨークのカーネギーホールですね。ここで2回やらせていただきました。1回目がとても好評だったので、2019年にアンコール公演みたいな感じで行きました。その時に被爆2世の方が一緒に出てくださいったのですが、そこで僕が演奏したコカリナは広島で被爆した木で作ったものでした。

その被爆2世の方は32歳の時に乳癌になって、このコンサート3か月後に亡くなりました。カーネギーホールでは自分のお兄さんの体験を話してくださいって、それに合わせて僕も演奏するというコンサートで、これは本当に忘れられません。実は彼女は被爆協のメンバーで、被爆協の中に被爆2世委員会というのがあったのですが、その中心メンバーだったので、彼女が生きていたら今回のノーベル平和賞の受賞を本当に喜んでいただろうと思っっています。あとウィーンですね。ここで東日本大震災の後にコンサート4回行いました。これには宮城の被災地の子どもたち8名が行って、この子どもたちと一緒にコカリナを演

奏しましたが、これは凄かったですね。アンコール、アンコールの連続で、最後のスタンディングオベーション、これが鳴りやまず続きまして本当に感動的でした。そんなコンサートもかなり思い出深いですね。

意識的に作ったというよりも、何かに惹きつけられるように出会ったという感じですね。震災前から東北で何度もコンサートをやっていたので、とにかく被災地の皆さんを助けなくちゃという思いが強くて出かけて行きました。たまたま石巻に地震後の火災で焼けた木があつたので、何とかコカリナにできないかと思つたのですが、話がトントんと進んでいき、地域の皆さんもすごく喜んでくださってコカリナができました。

そうしたら陸前高田でもたくさん松が倒れているという話があり、そちらでもということになり、被災して倒れた松で約1千本のコカリナを作つて陸前高田の全小生に送りました。そんなことを市長さんが聞きつけて、大津波にもかかわらず残った「奇跡の一本松」の枝もコカリナにしようということになり、それを頂いて演奏しています。広島の被爆樹については、そもそもは広島の高校生たちがコンサートに学校で大切に

【2面に続く】